



藤野歌舞伎保存会 会長 諸角安治氏と。

にスクリーニングし、結局、神奈川県相模原市の藤野村歌舞伎を調べることにしました。先生が事前に、神奈川県相模原市教育委員会生涯学習文化財課主任長澤氏と藤野歌舞伎保存会会長諸角氏と連絡を取ってくださいました。先生がお忙しい中、私の調査がうまく進むように心を砕いて手配をしてくださったことに感謝しました。おかげで日本での調査はスムーズに行えました。

相模原市藤野村までは1時間半から2時間ぐらいかかります。高尾山を経由しましたので、電車から見る沿線の景色は素晴らしかったです。藤野に着くと、ちょっとしたエピソードがありました。私たちは山の上の藤野芸術の家に着きましたが、藤野歌舞伎保存会会長諸角氏は山の下で待っていたのです。しかし、山の上から駅までのバスは1時間半後に出る予定です。私とチューターの陳華沢さんは、しかたなく山の上でヒッチハイクしました。「山の下で駅まで乗せていってもらっていいですか」と聞くと、女性がすぐに承知してくれました。また、別れるとき、私たちが感謝の意を伝えると、彼女は「これも何かの御縁ですから」と言ってくれました。あらためて日本人の温かさを感じました。

今回の調査中、一番強く感じたのは人々が文化財を保

護する意識が非常に強いということです。藤野村歌舞伎の保護と伝承に関して、政府の介入はあまりありません。保存会の会員の方に「保護資金はどこから来ているのですか、政府からの援助はないですか」と聞くと、



藤野村歌舞伎 役者の方と。

「自分の力で

よ。政府のお金は使いたくない。政府の援助金を使ったら政府の考えにより保護と伝承をしなければならない。それは私たちの望む形ではない」との返事でした。保存会の会員は、藤野村歌舞伎の伝承において一銭もお金をもらわないばかりか、入会時には自分で入会費も払わなくてはなりません。個人の出資という尽力により保護がなされているという点に、私は深い印象を受けました。日本の民間の保護における成功体験は、中国にとって大いに参考になると考えています。

せわしない時間はいつも早く過ぎ去るものです。名残惜しい気持ちの中で21日間が終わりました。今回の訪問交流と調査の経験は何だか一杯のお茶のようでした。華やかな色と芳醇な味はありませんが、淡い香りは味わえば味わうほど尽きることがありません。日本でのこの経験に感謝しています。また、日本で助けてくれた先生と友達に感謝します。皆さんが私の心の中に友情の種をまいてくれたおかげで、今後の研究にさらに熱意と自信を持てそうです。

## 中国及び日本の古文書調査記

王 躍  
(華東師範大学)



2018年11月5日から11月25日まで、私は日本の神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センターを訪問し、交流を行った。今回の訪学のテーマは、中国と日本における古文書の調査研究であった。訪問期

間中に行った主な作業は、日本で収蔵されている中国の古文書及び日本の古文書の調査であり、今後のさらなる研究が待たれる。



## 一 日本で収蔵されている中国の古文書の調査状況

日本で出版または公開された中国の文書として、『中国土地契約文書集：金一清』、及び『中国清代民国公私文書』の二つを主に紹介する。前者はすでに出版されているが、後者は京都大学法学部に収蔵されているものの、書籍として出版されるには至っていない。そのすべての画像資料はインターネット上でのみ公開されており、各自でダウンロードし閲覧することが可能となっている。

前者の『中国土地契約文書集：金一清』は、東洋文庫明代史研究室の編纂により1975年に出版され、中国の土地契約文書を合計400点以上収録している。本書の書名には「金一清」とあるが、金代の文書は1点のみ、元代も8点のみにとどまり、その他はすべて



『中国土地契約文書集：金一清』

清代の契約文書となっている。これらの文書は非常に広範な地域にわたっており、その半分近くは河北省及び東北の盛京（現在の遼寧省）であり、それ以外は福建、江蘇、台湾、山東、安徽等である。編集委員会では、内容に基づき契約文書を土地所有権の移転とその他の関係文書の二種類に分類している。こうした整理方式は、中国で早期に出版された契約文書と非常に似ており、やはり文書の内容に基づき分類が行われている。



咸豊六年の李保による「担代」の文書  
『中国清代民国公私文書』京都大学法学部図書室所蔵

後者の『中国清代民国公私文書』は京都大学法学部に収蔵されており、372点が公開されている。基本的に太湖周辺の呉県、長洲県（江蘇省蘇州市の古称・別称で、

その名称は長洲苑及び古代の長洲県に由来）、元和県、太湖庁、嘉定県等からのもので、主に典売、租佃、税契（訳注：買主が契約締結後一定期間内に州県に持参した契拠に官が押印し契税を徴収する行為）、遺囑、及び借銀等の文書が含まれる。この史料で比較的目的を引く特徴は、推票、担代（訳注：引受）、会票（訳注：送金替為）の草稿、帰併（訳注：統合）といった文書の多くにおいて、右下にカラーの図柄が見られるということである。契約内容から見ると、個人が票号のような機関に対し借金や抵押等を行った際に残した証しとなっている。

## 二 日本の古文書調査研究

日本常民文化研究所歴史民俗資料学研究科の図書室に所蔵されている文書のうち、最初に目を通したのが正倉院文書である。この文書は正倉院中倉に収蔵された奈良時代の古文書で、12000点以上に上り、現存している奈良時代の文書の90%を占める。その大部分は、造寺・造仏及び写経と関連した内容で、その他には詔勅、戸籍、計帳、正税帳、輸租帳、賑給帳、各官庁間で交わされた文書等があり、日本の古代史研究において重要な史料となっている。

その後、関口先生が日本常民文化研究所の古文書を詳細にご紹介くださり、これにより、日本における文書整理は、基本的に家族を単位として行われることが分かった。また公文書のほかにも、数点の族譜（または「戸籍簿」といったほうがより適切かもしれない）や土地に関連した私文書を閲読し研究した。日本のいわゆる「族譜」とは、単なる家族の構成員の記録にとどまるものではなく、例えば土地や賦税も「族譜」上の登記を参考基準として計算されていた等、他にも多くの機能を担っていたことが分かった。加えて、「族譜」の表紙には、平民ま



神奈川県立歴史博物館での宮本先生たちとの集合写真

たは賤民といった、その家族の地位が明示されているが、この点は中国古代における社会現象と非常に類似している。中国古代においても良民・賤民制度が存在しており、中国及び海外の学者はともにこの問題を非常に注視している。このほか、関口先生からは特に文書の花押の問題についてご教授いただいた。花押は身分の高い者のみが所有していたもので、身分の低い者は「十」の字を代わりに用い、これは略押と呼ばれた。これらが多く用いられたのは江戸時代までで、その後は印章に取って代わられた。

小熊先生に取り持っていただいたことで、11月18日に神奈川県立歴史博物館の古文書を見学・調査する機会に恵まれた。ここでは主に日本の江戸時代の寺院文書、通関文書（仮に「通関文書」と呼ぶこととするが、文書を見る限り当時は「往来手形之事」と呼ばれていた）、及び江戸以前の分地に関する文書への理解を深めるこ

とができ、この場を借りて博物館の宮本先生に心から感謝申し上げる。宮本先生のご説明により、戸籍人口の登記、土地台帳、及び税収の状況の記録を中心に、日本の寺院における公文書の内容及び形式について基本的な理解を得ることができた。現在見られる帳簿・記録簿と非常によく似ているように思われた。また、当時は人口の流動に対し非常に厳格な管理が行われていたため、多くの地点に関所がもうけられており、通関文書は非常に典型的に見られるものであった。地点間の移動で関所を通過する場合には、この通関文書が必要であった。

日本で収蔵されている中国の古文書も日本の古文書も、その数は私が調査した範囲を遥かに超えるものである。特に日本の古文書は膨大な数が存在しており、日本の歴史、社会、文化、経済を研究する上で非常に重要な文献資料となっている。

## 神大訪学小記

高 志明  
(北京師範大学)



大学を訪問した日本での日々は、あまりにも短く、あたかもなかったかのようにさえ思えます。しかしその経験はすでに私の心に刻まれています。

日本に着くや否や、この国の「温もり」を感じました。飛行機が成田空港に到着したのは夜10時過ぎでしたが、携帯翻訳ソフトに頼りながら道を尋ねて、事前に予約していた空港のカプセルホテルを見つけました。道中私を驚かせたのは、真夜中だったにもかかわらず、私が助けを求めた人は皆親切だったことであり、ある若い警察官はわざわざ私をシャトルバス乗り場まで連れていってくれました。このような見知らぬ人に対する親切心、日本人の謙虚さと日本社会の節度について賞賛せざるを得ません。

日本で病気にかかってしまった経験は印象的でした。翌日、東京から横浜に来て、タイミング悪く病気の痛みに襲われ、思いがけず日本の医療サービスを体験しました。その日の午後、成田紅音さんと彼女の同僚、留学生の張韜さんが私に付き添ってくれ、神奈川大学近くの神戸病院に行きました。診察を待つところから点滴が終わるまで4、5時間かかりましたが、彼らがせっせと私の

世話をしてくださったことに私は心から感謝の気持ちでいっぱいになりました。この医療経験によって日本の医療サービスの秩序と便利さも感じました。

3人の先生のことは一生忘れられません。まずは指導教員の鈴木陽一教授です。鈴木先生は60歳過ぎですが、一番の特徴は上

唇にたくわえたふさふさとした髭です。鈴木先生はとても優しく、物がひしめく研究室で私と会ってくださいました。研究室の面積は小さくはないのですが、図書資料が空間の90%以上を占めています。先生の机は



鈴木陽一先生の研究室で。